



broken bat but...

- 折れたバットの活用方法 -

What happened to the broken bat ?

折れたバットはどこへ行く？

野球において欠かせない存在である木製バット。乾いた打球音やしなりが人気で、プロ野球選手のみならず、草野球ユーザーにも幅広く使用されている。

しかしながら、木という素材は芯を外して打てばすぐに折れ、使い物にならなくなり、捨てられてしまう。

普段から木製バットが使用されているプロ野球でも、折れたバットがすべて回収されることはないという。バットに使用できる木材は限られており、ライフサイクルがとても長い木の素材をこんな簡単に捨てるのはあまりにも勿体ない。



グリップ部分が一番折れやすい！

バットで一番細く、弱いグリップ部分。芯で捉えず打ち損じた時は必ずここが折れる。それに近年は「**投手のレベルアップ**」「**平均球速の上昇**」「**変化球のパーソナル化**」の三要素により、受け身であるバッターは以前よりバットを折られる要因は増えているといっている。

日本人投手でも160km/hを超えるストレートと多彩な変化球を備えるようになり、海を渡りMLBでも大成功を収めている時代だ。さらに土地開発や森林伐採の影響で木そもそもの本数も限られてきている。折れてしまうのは仕方のないこととはいえ、何か活用方法は無いか考えてみた。

日用品へのリメイク

いくら折れたバットといっても、元は木材。少しリメイクすれば折れたバットだって日用品や家具に生まれ変わる。

自分の使っていたバットに愛着や思い出がある人は多い。たとえ折れて使えなくなったとしても、野球以外の場所で、形を変えて手元に残る。

また、プロ野球選手などと提携し、その選手の折れたバットをリメイクして販売できれば、野球ファンからすれば至高の一品となり、回収されるだけだったバットで経済効果を期待できる。

考えた活用例



「傘バット」

グリップエンドと雨傘の融合
握りやすく、手に馴染む。
一目でわかるので忘れてたり
無くしたりしづらい。

「打ツール」

芯部分とスツールの融合
太い芯も割れた部分を加工
すれば、ちょっと一息落ち
着けるスツールに変身。



クラッチして使えなくなった
部分は合板のようにして椅子
の肘掛けなどに活用できる。
しなりがきいて心地よく座れる。

For the earth and for bats.

12 つくる責任
つかう責任



地球にも、バットにも。

今回の提案は、近年話題に上がる持続可能な開発目標(SDGs)に当てはめられるように、「バットに第二の打席を。」というテーマで考えた。

SDGsの12番に「つかう責任 つくる責任」というテーマがある。この中の項目にはこう書かれている。

「12-2 2030年までに、天然資源を持続的に管理し、効率よく使えるようにする」

「12-5 2030年までに、ゴミが出ることを防いだり、減らしたり、リサイクル・リユースをして、ごみの発生する量を大きく減らす。」（ユニセフ協会SDGsCLUBより）

バットは非常に高価だ。そんな高価なものを折れただけで捨てるのはとてももったいない。

こうやって再利用することで、折れたバットに第二の打席が生まれる。これからの僕はそういったサイクルをつくっていきたい。